

日韓の大学入試におけるドイツ語試験問題

吉 満 たか子
外国語教育研究センター

1. はじめに

日本の大学入試センター試験(以下「センター試験」)では、外国語科目として英語・ドイツ語・フランス語・中国語・韓国語があり、受験者は必要に応じてこの5つの外国語から1つを選び受験する。しかし平成22年度の受験者数¹⁾は英語が513,073人で99.84%を占め、ドイツ語0.02%(125人)、フランス語0.03%(167人)、中国語0.07%(366人)、韓国語0.03%(167人)となっており、英語以外の外国語を受験するのはごく少数である。

日本のセンター試験に相当する韓国の大学修学能力試験(以下「修能試験」)では英語とそれ以外の外国語は別の領域科目として分けられており、ドイツ語・フランス語・スペイン語・ロシア語・日本語・中国語・アラビア語の7言語が第2外国語科目として受験可能である。日本に比べより多様な言語が受験可能な科目になっているだけでなく、受験者数²⁾も2009年度(韓国では2010学年度)では、ドイツ語3,503人、フランス語4,172人、スペイン語3,685人、中国語12,666人、日本語25,630人、ロシア語3,275人、アラビア語51,141人³⁾となっている。これは、韓国では第2外国語が高等学校での選択必修科目となっており、すべての高校生が英語以外の外国語をある一定期間学んでいること、そして、少なからぬ数の大学が第2外国語の試験結果を選抜の判断基準としていることに起因する。日韓両国の中等教育のカリキュラムと大学入試制度には相違点が多く、この数を単純に比較することはできない。しかし、中等教育を修了した段階の青少年が等しく英語以外の外国語を一定期間学習しており、その中の一定数は当該言語の基礎的な学力を身に付けているという事実は注目に値する。

本稿では、韓国における大学入試制度とドイツ語試験の位置づけを概観し、2009年11月に実施された修能試験におけるドイツ語の試験問題を日本のセンター試験の問題と比較・分析する。

2. 韓国の大学入試制度

韓国では2002年以降、大学が入学者を選抜する際には、①修能試験の成績、②高等学校が作成する「学校生活記録」(いわゆる内申書)、③実技・小論文・面接等の形式で課される「個別試験」、④推薦書等が主な判断材料となっている。選抜時におけるこれらの比重は大学によって異なるが、受験者の学力を測定するための手段は修能試験に限られている。そのため、大学入学を希望する者は全員この試験を受験する必要がある。修能試験には8つの試験領域と48の試験科目があり(表1)、受験者は入学を希望する大学に指定された領域から科目を選択して試験を受ける。

修能試験は、韓国教育課程評価院(Korean Institute of Curriculum and Evaluation, 略してKICE)と各自治体の教育委員会が共同して実施している。KICEは出題や問題用紙の印刷・配布、採点と成績通知に責任を持ち、教育委員会は願書の交付・受付、問題解答用紙の運送・保管、試験管理に責任を持つ(神戸大学 2008)。

表1：大学修学能力試験の科目⁴⁾

試験領域	科 目	科目数
言 語	韓国語	1
数 理	“カ”(가) 型：数学Ⅰ＋数学Ⅱ＋選択科目（微分と積分／確率と統計／離散数学のうち1科目選択） “ナ”(나) 型：数学Ⅰ	2
外国語（英語）	英語	1
社会探求	次の11科目から4科目を選択 倫理（倫理と思想＋伝統倫理）／国史／韓国地理／世界地理／経済地理／韓国近現代史／世界史／法と社会／政治／経済／社会・文化	11
科学探求	次の8科目から4科目を選択 物理Ⅰ／化学Ⅰ／生物Ⅰ／地球科学Ⅰ／物理Ⅱ／化学Ⅱ／生物Ⅱ／地球科学Ⅱ （ただし、物理Ⅱ／化学Ⅱ／生物Ⅱ／地球科学Ⅱからは2科目までのみ選択可能）	8
職業探求	次の4科目から1科目を選択 農業情報管理／情報技術基礎／コンピューター一般／水産・海運情報処理	17
	次の13科目から2科目を選択 農業理解／農業基礎技術／工業入門／基礎製図／商業経済／会計原理／水産一般／海事一般／海洋一般／人間発達／食品と栄養／デザイン一般／プログラミング	
第2外国語／漢文	次の8科目から1科目を選択 ドイツ語Ⅰ／フランス語Ⅰ／スペイン語Ⅰ／中国語Ⅰ／日本語Ⅰ／ロシア語Ⅰ／アラビア語Ⅰ／漢文	8

修能試験は毎年11月初旬に実施され、12月初旬に成績が大学だけでなく受験者本人にも通知される。通知されるのは、受験した科目それぞれについて「素点」と「標準点数」、科目受験者数内での「百分位（パーセンタイル）」そして各科目の総受験者を9段階のレベルに等級付けた“Stanine”と呼ばれる「等級」である。

「標準点数」は、科目間の難易度による差異を是正するべく2005年度以降導入された点数である。第2外国語科目の標準点数は次のようにして算出される。

$$\text{標準点数} = 50 + 10 \times (\text{素点} - \text{平均点}) \div \text{標準偏差}$$

「百分位」は、各科目内での位置づけ表わすもので、例えば上位1％に位置する場合には「99」、上位3％に位置する場合には「97」というように通知される。この百分位は基準比率に従って、1等から9等までに区分される（表2）。

表2：Stanine の等級と百分位

Stanine(等級)	1	2	3	4	5	6	7	8	9
百分位(基準比率)	4%	7%	12%	17%	20%	17%	12%	7%	4%
累積比率	4%	11%	23%	40%	60%	77%	89%	96%	100%

3. 大学入試における第2外国語の比重

受験生は修能試験において、入学を希望する大学の指定する領域科目を選択して受験する。どの科目を課すかは学科や募集区分より異なる。表3は韓国の大手予備校である「イトゥース(Etoos)」⁹⁾がインターネット上で発表しているものだが、日本の一般入試にあたる「定時募集」において第2外国語を受験科目としている主要な大学と反映方法、およびその比重の一覧である。

入学者を選抜する際の第2外国語の比重は、大学によって異なるが、釜山外国語大学のように修能試験における第2外国語試験の成績だけで合否が決まってしまう大学も存在する。

金(2008)によれば、例えばソウル大学では、数学や科学、外国語やスポーツ、芸術といった特定分野での特異な才能を持つ生徒に対して特別選考を行っているが、高等学校における第2外国語の学業成績の他、ZDやZMPといったドイツ語検定の成績も評価の対象となり得る。神戸大学(2008)の調査によれば、体育・語学・情報科などの特技者特別選考を行っている大学は127校あり、募集学生数は7,037名に上る。また、ソウルへの一極集中が年々進む中、ソウル地区にある大学の人気は高まる一方である(神戸大学2008)。表3にある大学は、ソウル大学をはじめその多くがソウルにキャンパスを置く韓国の主要な大学であり、これらの大学が第2外国語を選抜の判断材料としていることも、受験者数に影響していると考えられる。

表3：入学判定における第2外国語の比重

大 学	学 部 ・ 学 科	割合 (%)	反 映 方 法
建国大学	国語国文学科/英語英文学科/中国語中国語文学科/哲学科/史学科/コミュニケーション学科/文化コンテンツ学科	-	取得標準点数の5%を加算点として付与
建陽大学	全学科(ただし眼鏡光学科/中等特殊教育学科/初等特殊教育学科/看護学科/放射線学科/医学科/歯科衛生学科/作業療法学科/臨床病理学科/物理療法学科/幼児教育学科は除外)	33.3	韓国語・数理・英語・探求領域と同様に選択領域の1つとして反映
慶北大学(国)	人文学部/ヨーロッパ教育学部	6.67	社会探求領域の1科目として反映
慶熙大学	全学科(ただし建築学科を除く)	-	慶熙大学独自の換算式に基づき、受験生に有利な場合、英語に抱合して反映
高麗大学(ソウル)	人文・自然系	4.73	探求領域科目の1科目として反映
高麗大学(世宗)	経商学部/公共行政学部	4.73	
	人文学部/芸術・体育系	6.67	
檀国大学(竹田)	自然系	5.57	
	人文系(商経学部の一部を除く)	20.00	探求領域科目の1科目として反映
	上記以外の商系学部	12.50	
芸術・体育系	15.00		
檀国大学(天安)	人文系	20.00	
大田カトリック大学	全学科	-	13.2点以内で加算
東国大学	人文系・自然系	5.00	探求領域科目の1科目として反映
	家政学科・コンピューター学科	6.67	
	芸術・体育系	13.30	

大 学	学 部 ・ 学 科	割合 (%)	反 映 方 法
東西大学	人文・自然系	12.50	探求領域科目の1科目として反映
	芸術・体育系	16.65	
培栽大学	全学科	15.00	探求領域科目の1つとして反映
釜山大学 (国)	第2外国語関連学科/漢文学科	-	取得標準点数の5%を加算点として付与
釜山外国語大学	人文系	30.00	探求領域科目の1科目として反映
	自然系	25.00	
	芸術・体育系	100.00	韓国語・数理・英語・探求領域と同等に選択可能な科目として反映
西江大学	人文系	5.38	社会探求領域の1科目として反映
ソウル大学 (国)	人文系	5.60	指定領域での反映 (ただし、数理と科学探求領域で受験した者は、英語得点の25%と第2外国語の得点を比較して、成績の良いほうを反映)
ソウル神学大学	全学科	25.00	探求領域科目の1科目として反映
ソウル女子大学	人文系のB群	10.00	探求領域科目の1科目として反映
	自然系のB群	16.65	
	人文・自然系のC群	15.00	
	芸術・体育系	25.00	
鮮文大学	全学科	15.00	探求領域科目の1科目として反映
成均館大学	人文系・コンピューター教育学科	6.67	探求領域科目の1科目として反映

4. 修能試験とセンター試験におけるドイツ語試験問題

修能試験の解答形式はすべてマークシート方式であり、どの教科の設定問も基本的に五者択一の問題である。第2外国語は50点満点の試験で、その試験時間は40分間、問題数は30問である(表4)。これに対し、日本の大学入試センター試験のドイツ語試験は200点満点で、問題数が45問(解答のマーク数は53)、試験時間は80分となっている。

表4：韓国の大学修学能力試験：時間と配点⁶⁾

試 験 領 域	試験時間	配 点	問 題 数
言語 (韓国語)	80分	100点	50 (内リスニング問題5)
数理 (数学)	100分	100点	30
外国語 (英語)	70分	100点	50 (内リスニング問題17)
社会・科学・職業探求	30分	50点	20
第2外国語/漢文	40分	50点	30

表5は、2009年11月に実施された2010学年修能試験ドイツ語試験の問題をまとめたものである。本稿では、この試験問題を平成22年1月に実施されたセンター試験のドイツ語試験問題と比較して考察するが、センター試験の問題については紙幅の都合上、掲載を割愛する⁷⁾。

修能試験の出題は大きく分けて①発音と正書法に関する問題 (第1～2問)、②語彙に関する問題 (第3～7問)、③文法に関する問題 (第8～11問)、④会話文の理解 (第12～15問/第17～

18問／第20～23問／第25問／第27問), ⑤叙述文の理解(第26問／第28～30問)に分類できる。発音に始まり, 文法, 会話, 長文という出題順序は日本の大学入試センター試験にも見られる順序である。

修能試験の配点は, 1問につき1点もしくは2点となっている。これに対し, センター試験では, 発音や文法を問う問題では1問につき2～4点, 会話文を用いた問題では1問につき5点, 長文読解では1問あたり6点と, 読むために要する時間の長さ按比例した配点となっている。

修能試験では多くの問題が短い会話の中に埋め込まれた問題となっており, 長文問題にあたる第26問のテキストは70語, 第30問は55語で構成されている。他方, センター試験では発音や語彙, 文法を問う問題では, 選択肢となっている単語あるいは一文だけを読んで解答する形式であるが, 会話文は20語程度の短い会話が4つ, 60語程度の会話が1つ, 120語程度の会話が2つ, それに加えて長文読解問題では300語程度のテキストが使用されている。

表5: 2010学年度大学修学能力におけるドイツ語 I の試験問題 (2009年11月実施)

	問題の概要	出題意図／要求される知識	配点
1	下線部と同じように発音される母音を含む語は? A: Wer ist das? B: Das ist mein Bruder ① Stuhl ② Butter ③ Zucker ④ Stunde ⑤ Hunger	発音(母音)	1
2	下線部の発音がそれぞれ違う選択肢は? ① Der Zug fährt <u>nachts</u> . ② Meine <u>Schwester</u> hat Durst. ③ An der <u>Ecke</u> steht ein <u>Kind</u> . ④ Ich bestelle ein <u>Taxi</u> für <u>sechs</u> Uhr. ⑤ In der <u>Stadt</u> gibt es einen neuen Markt.	発音と正書法	2
3	空欄(a)～(c)に入る語に共通するアルファベットは? □(a) - Westen - Süden - Norden Frühling - Sommer - □(b) - Winter Montag - Dienstag - □(c) - Donnerstag ... ① e ② h ③ o ④ t ⑤ w	語彙(名詞)と正書法	2
4	会話文の空欄に入る語は? A: Julia, wie war der Film? B: Der Film war sehr _____. Ich habe fast nur geschlafen. ① froh ② müde ③ fleißig ④ langweilig ⑤ interessant	会話文の理解 語彙(形容詞)	1
5	空欄(a)と(b)に入る語の組み合わせとして適当なものは? Bibliothek: Hier kann man sich (a) leihen. (b): Hier bekommt man Medikamente. ① Bilder - Rathaus ② Bilder - Bäckerei ③ Bücher - Rathaus ④ Möbel - Apotheke ⑤ Bücher - Apotheke	語彙(名詞)	1
6	空欄(a)～(c)に入る語の組み合わせとして適当なものは? Christian kommt nach Haus. Er macht (a) die Hausaufgaben und lernt für eine Prüfung. (b) isst er schnell zu Abend und lernt wieder. Kurz nach 23 Uhr kann er (c) ins Bett gehen. (a) (b) (c) ① zuerst - Danach - endlich ② endlich - Danach - zuerst ③ endlich - Zuerst - danach ④ danach - Zuerst - endlich ⑤ danach - Endlich - zuerst	文章読解 語彙(副詞)	1

	問題の概要	出題意図／要求される知識	配点
7	下線部と入れ替え可能なものは？ A: Wann beginnt die Schule? B: Um halb neun. ① Wie lange ② Am Wievielten ③ Um wie viel Uhr ④ An welchem Tag ⑤ Wie viele Stunden	語彙(疑問副詞)	1
8	空欄へ入れる語として適当なものは？ A: Willst du wirklich auf diesen _____ Berg steigen? Der ist doch über zweitausend Meter hoch! B: Das ist doch kein Problem für mich. ① hohe ② hohes ③ hohen ④ hoches ⑤ hohen	文法 (名詞の性と形容詞の変化)	2
9	空欄へ入れるものとして適当なのは？ A: Was hast du am Sonntag gemacht? B: Ich bin _____. ① viel gelesen ② zu Hause geblieben ③ meiner Mutter geholfen ④ meine Freundin besucht ⑤ mein Zimmer aufgeräumt	文法／語彙 (現在完了形における sein と haben の使い分け)	2
10	下線部が正しいものだけを選んでいる選択肢は？ a. Sie hat Angst vor Hunden. b. Wer ist schuld <u>an</u> dem Unfall? c. Er kann <u>über</u> die Frage nicht antworten. d. Ich bin <u>zu</u> deinem Vorschlag einverstanden. ① a ② a, b ③ c, d ④ a, b, c ⑤ b, c, d	文法 (名詞や形容詞と前置詞の結びつき)	2
11	空欄 (a) と (b) に入る語の組み合わせとして適当なものは？ A: Herr Meier, wie geht es Ihren Eltern? B: Es geht <u>(a)</u> sehr gut, danke. A: Bitte, grüßen Sie <u>(b)</u> von mir! (a) (b) (a) (b) (a) (b) ① sie - sie ② sie - ihnen ③ ihnen - sie ④ ihnen - ihnen ⑤ Ihnen - Ihnen	文法 (動詞と人称代名詞の格)	2
12	空欄に入るものとして適当なものは？ A: Möchtest du einen Kaffee? B: _____ Ich darf nicht. A: Warum denn nicht? B: Der Arzt sagt, ich soll keinen Kaffee trinken. ① Nein, danke! ② Das macht nichts. ③ Ich bin dafür. ④ Nichts zu danken! ⑤ Das stimmt nicht.	会話文の理解 決まり文句	2
13	会話の中で A が買う切符は？ A: Eine Fahrkarte, nach Dortmund, bitte! B: Einfach oder hin und zurück? A: Einfach, zweiter Klasse. B: 45 Euro, bitte! ① 片道 1等席 1枚 ② 片道 1等席 2枚 ③ 片道 2等席 1枚 ④ 往復 1等席 2枚 ⑤ 往復 2等席 1枚 (選択肢はいずれも韓国語)	会話文の理解 語彙(列車での旅に関連)	1
14	服を買う時の会話として適当なものは？ ① A: Steht mir der Rock? B: Ja, er steht am Fenster. ② A: Kann ich Ihnen helfen? B: Ja, ich möchte eine Jacke. ③ A: Welche Größe tragen Sie? B: Ich trage gern helle Kleider. ④ A: Welche Farbe möchten Sie? B: Ich brauche eine billige Bluse. ⑤ A: Wie finden Sie diesen Pullover? B: Ich finde ihn im Schrank.	会話文の理解	2

	問題の概要	出題意図／要求される知識	配点
15	<p>空欄(a)に入るものとして最も適当なものは？ [会話は列車内で女性が会話をしているイラストの吹き出し内にはめ込まれている。座席に座っている女性の傍らにはカバンが置いてある]</p> <p>○ : Entschuldigung, ist der Platz frei? ■ : _____ (a)</p> <p>① Nein, setz dich! ② Danke, gute Reise! ③ Nein, mach schnell! ④ Natürlich, ich habe immer frei. ⑤ Ja, bitte. Ich nehme die Tasche weg.</p>	会話文の理解	2
16	<p>次の2つの文から知り得る教訓として最も適当なものは？</p> <p>・ Morgen ist es vielleicht schon zu spät. ・ Morgen, morgen, nur nicht heute, sagen alle faulen Leute.</p> <p>① 遠大な夢を持って ② 急がばまわれ ③ 現在に最善をつくせ ④ 常に明日のことを考えよ ⑤ 過去を通して未来を見るべし (選択肢はすべて韓国語)</p>	ことわざの理解	1
17	<p>空欄に入るものとして適当なものを選んでる選択肢は？</p> <p>A: Hast du einen Plan für den Urlaub? B: Ja, ich will eine Schiffsreise machen. Möchtest du vielleicht mitkommen? A: Das geht leider nicht. _____</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>a. Ich freue mich auf den Urlaub. b. Bei Schiffsreisen werde ich immer krank. c. Ich komme gern mit. Wann fahren wir los? d. Ich habe schon vor zwei Wochen Urlaub gemacht.</p> </div> <p>① a, b ② a, c ③ b, c ④ b, d ⑤ c, d</p>	会話文の理解	2
18	<p>空欄に入るものとして最も適当なものは？</p> <p>A: Ich nehme den Fisch mit Kartoffeln. Möchtest du den auch? B: Ja, aber _____.</p> <p>① lieber mit Reis ② mit Kartoffeln ③ lieber das Steak ④ ich nehme lieber Fisch ⑤ der Fisch schmeckt gut</p>	会話文の理解	2
19	<p>高校生を対象に調査した結果を表したグラフである。空欄(a)に入る質問は？ [次のデータが円グラフとして示されており、空欄(a)はタイトルとして置かれている： Sprechen mit Deutschen (34%), Lesen deutscher Zeitungen (22%), Studieren in Deutschland (19%), Reise nach Deutschland (17%), Sonstiges* (8%) * Sonstigesのみ欄外に韓国語訳あり]</p> <p>① Welches Fach mögen Sie? ② Warum lernen Sie Deutsch? ③ Was für eine Person sind Sie? ④ Wohin fahren Sie in den Ferien? ⑤ Was machen Sie gern nach dem Unterricht?</p>	疑問文とそれに関連する語彙の理解	2
20	<p>空欄に入るものとして適当なものを選んでる選択肢は？</p> <p>A: Wie oft gehst du schwimmen? B: _____</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>a. Jeden Tag. b. Drei Stunden. c. In einem Jahr. d. Alle drei Tage. e. Zweimal im Monat.</p> </div> <p>① a, d ② b, c ③ d, e ④ a, d, e ⑤ b, c, e</p>	会話文の理解 (頻度を表す語彙)	2
21	<p>空欄に入れるものとして最も適当なものは？</p> <p>A: Du warst nicht da. Was war denn gestern Abend? B: _____</p> <p>① Ich habe gefrühstückt. ② Es war gestern Abend. ③ Da gebe ich eine Party. ④ Ich habe eben telefoniert. ⑤ Da musste ich im Garten arbeiten.</p>	会話文の理解 (過去形)	2

	問題の概要	出題意図／要求される知識	配点
22	<p>空欄に入れるものとして最も適当なものは？</p> <p>A: Heute ist es nicht so warm wie gestern. B: Ja, du hast Recht. Heute ist es _____.</p> <p>① am wärmsten ② kälter als gestern ③ so kalt wie gestern ④ wärmer als gestern ⑤ so heiß wie gestern</p>	<p>会話文の理解 (天候／比較表現)</p>	2
23	<p>空欄に入れるものとして適当なものを選んでいる選択肢は？</p> <p>A: _____? B: Dreiundzwanzig Euro.</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <p>a. Was kostet das b. Wie teuer ist das c. Wie viel macht das d. Was macht den Preis</p> </div> <p>① a, b ② a, d ③ c, d ④ a, b, c ⑤ a, b, d</p>	<p>会話文の理解 (値段の尋ね方)</p>	2
24	<p>アンケート用紙を作っています。Frage 6 に対する答えとして適当でないものは？</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; width: fit-content;"> <p>Frage 6</p> <p>Sie möchten am Wochenende nichts tun, aber Ihre Freunde möchten tanzen gehen. Gehen Sie mit?</p> <p>(a) <input type="checkbox"/> Nein, ich bleibe zu Hause. (b) <input type="checkbox"/> Ja, denn ich möchte nicht allein sein. (c) <input type="checkbox"/> Manchmal ja, manchmal nein. (d) <input type="checkbox"/> Meine Freunde gehen tanzen (e) <input type="checkbox"/> Ich weiß es nicht.</p> </div> <p>①(a) ②(b) ③(c) ④(d) ⑤(e)</p>	<p>短文の理解 (質問に対する答え方)</p>	2
25	<p>空欄に入れる順が正しいのは？</p> <p>A: Guten Abend, wir suchen ein Zimmer. B: _____ A: _____ B: _____ A: _____</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <p>a. Tut mir Leid, alle Zimmer sind voll. b. Soll ich für Sie das Karlshotel anrufen? c. Da waren wir auch schon. Das ist zu teuer. d. Oh nein! Das ist jetzt schon unser drittes Hotel.</p> </div> <p>① a - c - d - b ② a - d - b - c ③ b - a - d - c ④ b - c - d - a ⑤ d - c - b - a</p>	<p>会話文の理解 (対話の整合性)</p>	2
26	<p>ミンホの移動経路を時間順に正しく配列しているものは？</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; width: fit-content;"> <p>Hallo Anna, ich bin jetzt in München. Du weißt ja, ich wollte vor dem Beginn des Studiums eine kleine Reise machen. Meine Reise hat in Frankfurt begonnen. Die zwei Tage dort waren sehr gut. Heidelberg war auch sehr schön. Ich denke diese Stadt vergesse ich nie. Die nächsten drei Tage bleibe ich hier in München. Am Freitag komme ich dann zu dir nach Berlin. Ich freue mich schon! Dein Minho</p> </div> <p>[テキストはパソコンでの Eメールの体裁を取っている]</p> <p>① Frankfurt → Heidelberg → München → Berlin ② München → Frankfurt → Heidelberg → Berlin ③ Heidelberg → Frankfurt → Berlin → München ④ München → Berlin → Frankfurt → Heidelberg ⑤ Frankfurt → München → Berlin → Heidelberg</p>	<p>文章の読解 (時系列)</p>	2

	問題の概要	出題意図／要求される知識	配点
27	空欄に入れるのに最も適当なものは？ A: Wohnt Tobias noch in Heidelberg? B: Nein, _____. Er lebt jetzt in Bonn. ① auch ② schon ③ erst nicht ④ nicht mehr ⑤ noch nicht	会話文の理解 (副詞)	
28	次の文が説明している事は？ ・ Dieses Fest feiert man im Dezember. ・ Es ist das wichtigste Fest Deutschlands. ・ Man stellt einen besonderen Baum ins Wohnzimmer. ① クリスマス ② 復活祭 ③ カーニバル ④ 統一記念日 ⑤ オクトーバーフェスト (選択肢はすべて韓国語)	短文の理解 (ランデスクンデ)	1
29	招待状についての質問の答えとして適当なものは？ <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p style="text-align: center;">Einladung zum Klassentreffen <i>Abi 1989</i> Samstag, 18. Juli 2009</p> <p style="text-align: center;"><u>Programm</u></p> <p style="text-align: center;">* 14 bis 16 Uhr : Stadtspaziergang Wir treffen uns am Römerplatz</p> <p style="text-align: center;">* 18 Uhr: Essen, Trinken und Musik Ort : Restaurant <i>Waldgeist</i></p> </div> <p>質問 : Wo treffen sich die Leute am Abend?</p> ① Im Theater. ② Am Römerplatz. ③ Am Musikmuseum. ④ Im Klassenzimmer. ⑤ Im Restaurant Waldgeist.	短文の理解 (招待状)	1
30	作家 Herta Müller の説明文と内容の一致しないものは？ <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>Herta Müller ist 1953 in deutschsprachigen Raum Rumäniens geboren und hat dort an einer Universität deutsche Literatur studiert. 1987 ist sie mit ihrem Mann nach Deutschland ins Exil gegangen und hat dort viele Bücher geschrieben. 2009 bekommt Herta Müller den Nobelpreis für Literatur. Damit geht der Nobelpreis zehn Jahre nach Günter Grass wieder nach Deutschland. *Ruam : 地域 *Literatur : 文学 *Exil : 亡命 (注は韓国語)</p> </div> ① 1953年にルーマニアで生まれた。 ② 大学ではドイツ文学を勉強した。 ③ 夫と一緒にドイツへ亡命した。 ④ 2009年のノーベル文学賞受賞者である。 ⑤ Günter Grass が彼女の師匠である。	文章の読解	

修能試験とセンター試験では、難易度にも大きな違いがある。2010学年度の修能試験におけるドイツ語試験は、1997年に告示された「第7次教育課程」の「ドイツ語Ⅰ」に沿った内容となっている。第7次教育課程が定める「ドイツ語Ⅰ」の単位数は6単位⁸⁾であり、一般的には高校1年生で履修するカリキュラムである。Shin (2004)によれば、第7次教育課程が定める「ドイツ語Ⅰ」基礎語彙リストには815語が記載されており、高等学校で使用される認定教科書は、語彙の7割以上をこのリストから選ばなければならない。したがって修能試験で使用される語彙はごく基礎的なものに限定されている。また文法についても、カリキュラムの枠内で学ぶ基礎的な項目のみを問う出題となっている。

これに対し、センター試験の問題、特に長文問題には副文や関係文、da(r)-と前置詞の融合形を用いた副文の先行代理、不定関係代名詞としてのwerなどが含まれている。日本の大学で初修外国語としてドイツ語を学ぶ場合、これらの項目を1年次に学ぶことは稀で、通常はいわゆる「中級」の授業で初めて登場する項目である。また、修能試験に比べて難易度が高い熟語や慣用語表現も多々見られる。

センター試験との大きな違いとして、修能試験ではドイツ語圏の日常生活に関する知識を問う問題⁹⁾が毎年出題されていることも挙げられる。2009年度実施の修能試験では第28問がそれにあたり、3つの文を読ませ、それらがどの祝祭について書かれているかを答えさせている。これは、第7次教育課程「ドイツ語Ⅰ」では目標の1つとして「ドイツ語圏における日常生活に興味を持ち、それらを理解することを学ぶ」(Shin 2004)を掲げており、これに即した出題である。

5. 結 び

韓国では、修能試験におけるドイツ語試験が高等学校で履修したドイツ語に即した難易度であること、そしてドイツ語をはじめとする第2外国語の試験での成績が入学判定の際に一定の役割を果たしていることにより、高等学校における第2外国語は社会科目や理科学科目と同等の重みを持っている。熾烈な競争と相対評価を行う入試制度により、実際にはほとんど教えられていないアラビア語の受験者数が最も多くなるという歪みも生じているが、少なくとも日本語やドイツ語、フランス語や中国語といった従来から導入されている第2外国語を履修した受験生は、ある一定期間、高等学校で当該言語を履修し、基礎的な語彙や文法知識を身につけていると考えられる。

日本の高等学校学習指導要領では、ドイツ語は「英語以外の外国語に関する科目」として扱われ、「英語以外の外国語に関する科目については、第1から第6までに示す英語に関する各科目の目標及び内容等に準じて行うものとする」¹⁰⁾となっている。しかし実際の学習目標や内容は、授業を担当する教師や使用する教科書に委ねられているのが現状である。

平成22年度のセンター試験では、英語の平均点が118.14点に対し、ドイツ語は150.12点、フランス語134.81点、中国語138.03点、韓国語が149.97点といずれも高くなっている。等級付けや標準得点化によって相対評価を行う韓国とは異なり、素点そのまま成績となるセンター試験において、英語以外の外国語を受験することは受験生にとって決して不利なことではない。ドイツ語を開講している高等学校は全国で131校¹¹⁾存在しているが、センター試験の受験者が例年100人前後というのはあまりにも少ない数字である。これは、ドイツ語を履修した受験生が、ドイツ語よりも英語でセンター試験を受けたほうがより高得点を取れると判断していることを示しているにほかならない。センター試験に出題される文法や表現が修能試験に比べ難易度が高いことはすでに述べたが、語彙については平成22年度のドイツ語試験問題作成部会が「語彙の範囲については、日本独文学会教育部会の作成による『基本語彙集』をはじめ、各種独和辞典における重要語彙の選定などを参考にして、受験者に過度の負担が掛からぬよう極力配慮した」¹²⁾という見解を発表している一方、高等学校強化担当教員は「単語一つ一つの難易度を判定するのは、統一的なリストが存在しないため難しい」¹³⁾という意見を寄せている。どのような語彙が出るのかさえ不透明な状況では、受験が敬遠されるのも無理はない。

世界的に見れば、英語以外の外国語を大学で初めて学ぶという日本の現状は稀である。グローバル化が進行する半面、若者の外国に対する興味が薄くなったと言われる昨今、英語以外の外国語を学ぶ高校生は大変貴重な存在と言える。受験に関係のない科目としてドイツ語を学ぶ場合、

教師は物理的・心理的な負担をあまり感じることなく授業を展開できるであろうし、生徒ものびのびと学習できると考えられる。しかし、複数年次にわたりドイツ語を履修する場合、受験科目でないが故に履修そのものが生徒の負担となってしまうことも起こり得る。韓国のような中等教育における全面的な第2外国語の導入については十分な議論と初等・中等教育の新たなカリキュラムの構築が必要であるし、高等学校でのドイツ語教育を受験に直結させることの弊害も考えられるが、センター試験が高校生にとって学習の動機づけの一つになることは、たとえそれが外発的動機づけであっても決して悪いことではないと筆者は考える。むしろ受験勉強を通して大学入試の段階で基礎的なドイツ語の知識が獲得されていれば、大学でさらに高度な知識や能力を積み上げることも可能となるであろう。少なくとも出題範囲を透明化し、難易度を下げ、高等学校でのドイツ語学習の具体的な目標としてセンター試験が機能することが望まれる。

謝辞 本研究では、広島大学大学院教育学研究科の朱仁媛さんに韓国語でのサポートをしていただきました。心からお礼を申し上げます。

注

- 1) 独立行政法人大学入試センター『平成22年度大学入試センター試験実施結果の概要』による。
<http://www.dnc.ac.jp/modules/news/content0337.html>
- 2) 韓国教育課程評価院発表の『2010学年度大学修学能力試験標準点数度数分布』による。
http://www.kice.re.kr/ko/board/view.do?article_id=82932&menu_id=10087
- 3) アラビア語は1997年から第2外国語の1つとして高等学校での導入が可能になったが、筆者の知る限り実際にアラビア語を教えている高等学校はまだ存在していない。受験者は予備校や家庭教師からアラビア語を学び試験に臨むのが現状のようである。このような状況にありながらアラビア語の受験者が最も多い要因としては、①アラビア語の試験問題の難易度が他の言語よりも低いこと、②試験で高得点を取る受験者が少ないため、比較的低い素点でも高い標準点数や等級付けが得られることが考えられる。
- 4) 韓国教育課程評価院 2010年7月5日付『韓国教育課程評価院公示第2010-23号』による。
- 5) イトゥース (이투스) は韓国大手の予備校で、大学入試情報サイトも運営している。
<http://www.etoos.com/>
- 6) 韓国教育課程評価院 『韓国教育課程評価院公示第2010-23号』2010年7月5日。
- 7) 平成22年度の問題は、大学入試センターのホームページに掲載されている「平成22年度試験情報」http://www.dnc.ac.jp/modules/center_exam/content0284.htmlを参照。
- 8) 1単位は50分の授業を週に1回1学期(17週)の間の履修を指す(金子2008)。韓国の高等学校は2学期制で、第2外国語は週2～3時間、2年間履修するのが一般的である。
- 9) 韓国で出版されている修能試験対策用の問題集『ALLES KLAR』にも「文化」という項目があり、「基本常識」と「ドイツの生活」してドイツの面積や人口、祝祭日、学校制度、食事、休憩時間や鉄道などに関する情報が韓国語で解説されている。
- 10) 高等学校学習指導要領(平成11年3月告示, 14年5月, 15年4月, 15年12月一部改正)「第8節 外国語」を参照。
http://www.mext.go.jp/b_menu/shuppan/sonota/990301/03122603/009.htm
- 11) 『高等学校ドイツ語教育研究会会報』第21号による。

- 12) 大学入試センター『平成22年度問題評価委員会報告書』「第3 問題作成部会の見解」。
- 13) 大学入試センター『平成22年度問題評価委員会報告書』「第1 高等学校教科担当教員の意見・評価」。

参考文献

- 金 泰勲 (2008). 「韓国の大学入試制度に関する考察」『国際基督教大学学報』I-A, 教育研究 50, 41-53.
- 国際交流基金 (2009). 「日本語教育国別情報2009年韓国」.
<http://www.jpfi.go.jp/j/japanese/survey/country/2009/korea.html>
- 国立大学法人 神戸大学 (2008). 平成19・20年度文部科学省先導的・大学改革推進委託事業調査研究報告書「韓国における共通テスト (CSAT) のみによる大学入学者選抜の現状及び入学後の成績との関係や高大接続の現状などに関する調査研究」.
- 大学入試センター (2010). 「平成22年度試験問題評価委員会報告書」
http://www.dnc.ac.jp/modules/center_exam/content0286.html
- 박상화 (2005), ALLES KLAR (修能試験対応問題集), 동우 B&B.
- SHIN, Hyung-Uk (2004). Realisierung des 7. Curriculums in den koreanischen Schulbüchern für Deutsch. In KIM, Hallan (Hg.) *Deutsch als Fremdsprache in Korea, Zeitschrift der Koreanischen Gesellschaft für DaF*, Heft 14/Juli 2004, 7-40.

ABSTRACT

German Tests of University Entrance Examinations in Korea and Japan

Takako YOSHIMITSU

Institute for Foreign Language Research and Education
Hiroshima University

In Korea and Japan, entering university is based largely on the scores that students achieve on entrance examinations. Students applying to universities in Korea take the College Scholastic Ability Test, which is comparable to the National Center Test for University Admissions in Japan. This examination has five sections: Korean Language, Mathematics, English, various elective subjects in the social and physical sciences, and 'Foreign Languages or Chinese Characters and Classics'. For 'Foreign Languages', there are German, French, Spanish, Russian, Chinese, Japanese, and Arabic.

The German examination, for example, was taken in 2009 by about 3,500 students in Korea. On the other hand, in Japan only 125 students took the German part of the National Center Test. The reasons are that all students in Korea study English and another foreign language in secondary education, and that a certain number of universities require the foreign language results of the examination.

This article reports on the system of college administration and the German section of the College Scholastic Ability Test in Korea. The German test in Korea is analysed by means of comparison with the Japanese National Center Test. The findings show that the Korean test is based on the contents of study at high school, whereas the Japanese test is more difficult, not only in grammar but also in vocabulary. In Japanese high schools, the curriculum for German depends on the teachers and the textbooks, and Center Test administrators give no guidelines for required German vocabulary items. The number of German examinees will not increase until this opaque condition is improved.